

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800291		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホームおおきな家 東館		
所在地	夕張郡長沼町西町1丁目4-6		
自己評価作成日	平成31年2月14日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0175800291-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0175800291-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の、抱いている思いを常に尊重し、ご本人様が、納得した自立して生活して頂けるよう全職員が心をこめて支援をしていきます。  
長沼町の四季を感じて頂けるよう、季節の行事や、菜園などの趣味活動、公園内の散歩などに参加して頂き、地域の一員として、楽しい生活が送れるよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム おおきな家」は長沼町の静かな住宅地に建っている2ユニットの事業所である。利用者は事業所前の公園や近くの公園を散歩したり、畑づくりや収穫などで外気に触れている。2階建ての屋内は台所を中心にした回廊式で、居間の大きな窓から日差しが入り明るく全体が広々としている。町内会の花壇整備に利用者も土起こしなども一緒に、町の美化活動では利用者の参加できる時間帯にゴミ拾いを行っている。事業所の夏祭りには子供用のプールを設置したりボランティアの協力もあり、多数の住民や子供の参加を得て楽しみの機会になっている。事業所内では法人の「自分らしく生き生きと心豊かな暮らしを」の方針をもとに管理者と職員は利用者の関わりのあった馴染みの人や趣味、嗜好などが継続できるように細やかな心配りで支援している。受診では入居後もかかりつけ医の通院に職員が同行し主治医と連携して健康を管理している。重度化しても職員は可能な限り対応し看護職員から学びながら看取りも行っている。管理者と職員は申し送り時やミニカンファレンスでその都度ケアを話し合い支援につなげている。食事の楽しみを中心に新鮮な季節料理など食材を多くして盛り沢山の美味しい食事を提供し、利用者がゆったりと楽しい暮らしが継続できるように管理者と職員は温かな姿勢で対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく自由に、ありのままに暮らしの喜びと自信をみんなと共に」を理念に掲げ、ご利用者様が安心して暮らせるよう日々努力しています。	法人事業所共通の理念を事業所の理念と据えて掲げている。管理者は職員採用時に理念を説明し、職員に時々理念の内容を聞くようにしている。利用者がゆったりと楽しく過ごせるように、職員は意識してケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の「花いっぱい運動」や「清掃活動」に、ご利用者様と職員と一緒に参加します。また、ほのか会の夏祭りなど行事に地域の皆様との交流を深めています。	同業2か所の法人事業所が合同で夏祭りを開催し、ボランティアの場所設営やカラオケサークルの協力も得ている。お祭りに近隣の住民や子供たちが多数参加している。散歩中に住民と挨拶をしたり、町内会から花の苗を受ける時もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の研修会に職員が参加しています。更に、知識を深め、地域の方々々に理解や支援を伝えるよう努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、現在のホームの取り組みを報告したり、ご家族様や地域皆様から寄せられた貴重な意見を今後の、サービス向上に反映できるよう努めています。	運営推進会議は近隣法人事業所合同で年2回の開催としている。今年度のテーマは資料を用いて虐待・身体拘束防止対策の説明、昨年の地震対応について報告し情報や意見を得ている。会議案内、議事録は本部で送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各ホームの管理者は、役場主催のサービス調整連絡会議等に参加し町内外の福祉関連職員と協力関係を築くよう常に努力しています。	生活保護担当者とは、介護計画書の提出や受診時の医療券などで確認したり、利用者への訪問時に担当者と情報を交換している。認知症フォーラムの研修に職員も参加し、疾病の知識などを学びケアに役立てている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は、身体拘束のないケアを実践しています。研修にて具体的な身体拘束を学び理解する努力をしています。また、玄関の施錠はしていません。	法人の身体拘束等適正化指針に基づき3か月ごとの委員会の内容を職員も議事録で共有している。資料を活用し身体拘束の具体的な禁止行為や不適切なケアについて内部研修を行っている。拘束をしないケアをミーティングでも確認し、利用者の言動を制止しないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は、研修等にて虐待防止について学び理解を深め、虐待のないケアを実践し、虐待防止に努めています。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度等は、研修会を通じ学び理解する機会はありませんが、現在まで活用した支援はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご利用者様、ご家族様に丁寧に説明をし、不安や疑問には、時間をかけて解りやすく説明するよう努め、納得が得られるように、日々努力しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪時など、ご利用者様の状態を報告したり、ご要望や、ご意見などいつでも聞く事ができるように、信頼関係を築き、頂いた意見を運営に反映できるよう常に努めています。	家族の来訪時や電話で本人の意向を伝え、対応を話し合っている。介護計画の意向も聞いているが特に意見などはない。意見があれば個人記録や連絡ノートで共有している。各ユニットで利用者ごとにお便りを送り、普段の暮らしを伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人本部は、定期的に職員の意見や提案を聞く機会を設けています。その意見をホームの運営に反映させています。	申し送り時や、必要な時は勤務者でその都度ミニカンファレンスを行い、内容は連絡ノートなどで共有している。職員のケアの気付きから方法を話し合い、試しながら解決している。管理者は業務の中で職員の意見や個別の思いを聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部は、職員個々の努力や実績について直接的、間接的に職員の就業状況の把握に努めています。食事会、パークゴルフ、卓球、小旅行など、福利厚生にも力を入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部は、業務に無理のない範囲で内部、外部研修に参加できるよう配慮している。参加出来なかった職員には別の機会の参加を促したり、研修資料を配布しています。内部研修にて報告会も開くことも有ります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各地で開催される同業者との合同研修会などで、ネットワークの機会を作り、意見交換、情報交換等を行い更なるサービスの向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様や、ご家族様から、安心して頂けるように、情報を聴き、困っていることや不安なこと、抱えている問題などに、耳を傾け、安心してサービスを受けること関係づくりに、日々努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が、常日頃不安に思っていることや困っている事に、耳を傾け、要望を確認し、少しでも不安が解消できるように支援し、より良い関係を作れるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の思いや、要望を聴き、必要とされるニーズ確認を常に行う。また、他のサービスも必要かを検討し其の都度対応できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の、それぞれの人格を大切に、一方的な介護で無く、少しでも、職員が本物の家族に近づけるよう関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に、日々の生活状況を月1回のお手紙で報告している。また、電話連絡、ご家族様の訪問時に状況をお知らせし、意見、相談をお受けし、ご利用者様と一緒に支える関係を構築するよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居される際、ご利用者様の馴染みの品物を持参して頂くようお願いしている。また、馴染みの知人が常に来訪して頂いたり、馴染みの美容室、お店などの継続利用ができ交流支援しています。	パークゴルフでの友人や踊りの知人、以前に関わりがあった郵便局などの関係者や選挙時期に来訪者する方もいる。家族と美容室、外食、温泉に出かける利用者もいる。好きなドリンク、アメ、栄養補助食、漢方薬など意向に沿って提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係づくりのために、一人ひとりの個性や、生活習慣を把握し、ご利用者様同士が支え合い孤立する事がないように職員が常に関係づくりの支援をし、お互いに助け合い良好な関係が続くよう努めています。入居者様がお互いに顔を合わせる時間を多くしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様が入院をされた場合は、馴染みの関係が崩れないように病院へ常に面会に行き状況を聞いたり、家族様とも連絡を密にし相談や支援をするよう努めています。病院側と連携を常に行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の思いや意向の把握に努め、個々の思いを汲み取り寄り添う支援をするよう心掛けています。またご本人の意向も把握が困難な場合、ご家族様と相談し本人本位の支援に努めています。	本人との会話や表情を見て意向を把握している。課題分析表の更新期間はユニットによって違いもあるが、前回検討したセンター方式の「B-3」シートの活用ができていない面も見られる。	使用しているセンター方式「心身情報」のシート内に枠を設け、馴染みの関係で得た情報なども入れて本人の暮らしの習慣、趣味、嗜好などを記入し、変化も追記して情報の整備に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様、ご家族様、ケアマネージャーより、情報収集を行い、ご利用者様のこれまでの経過を把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、生活リズム、生活習慣や身体状況の現状把握に努めています。職員との会話も大切にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成時にご利用者様、ご家族様意向を確認し、職員より、ご利用者様の状態の確認を行い関係者とアセスメント、モニタリングし、現状に即した介護計画を作成しています。	計画作成担当者は個人記録や職員からの情報を基にモニタリング表の作成後、会議で方針を確認し3か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録はユニット共通に短期目標に沿って行い、いつもと違う利用者の様子などの記入方法を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日々の記録を行い、職員間で情報を共有のケアの実践に繋げています。また介護計画の見直しにも活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の状況に応じて発生するニーズに対して、その現状に即した柔軟な対応ができるよう、日々努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の福祉サービス等把握し、ご利用者様のニーズ対応できるよう努め、また町内会の行事にも職員と一緒に参加し楽しく生活が、できるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様の馴染みの、医療機関に定期受診の支援を行っています。職員も付き添い主治医との関係を大切に適切な医療を受けられるよう支援しています。また、訪問診療も利用されている方もいます。	かかりつけ医の通院は事業所が対応し、遠方も職員が同行している。主治医の診療情報提供書で専門的な病院を受診し、必要な時は家族も同席して説明を受けている。本人、家族の意向や身体的な状態から往診を受けている利用者もいる。	

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、ご利用者様の状況の変化に、いつでも対応できる体制が整っています。ご利用者様の健康状態の把握に努め、個々のニーズに対応できる体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は安心して治療し、早期に退院ができるよう病院関係者との情報交換や相談を密に行うように努めています。お見舞いも数多く訪問し、病院関係者との信頼関係を築く努力もしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、ご利用者様とご家族様と相談し希望があれば対応するよう努めています。昨年は、ご家族希望により、一例、見取り介護がありました。	利用開始時に重度化対応や看取りの内容を文章で説明し、同意を得ている。体調変化の状態に沿って関係者で方針を確認し、家族の意向で看取りを実施している。法人看護師の訪問やその都度の指導で看取りケアを学びながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員の指導にて、定期的に初期対応の訓練に参加しています。毎回、消火器の模擬訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会、地域住民の皆様にも避難訓練に参加して頂きたくため、町内会の総会、町内会長に協力をお願いしています。また、運営推進会議にも協力をお願いしています。	近隣法人事業所合同で避難訓練を実施し、消防署の立ち会いの下、夜間を想定した避難訓練には地域住民の参加は得られていないが、3月の訓練に参加の協力を依頼中である。備蓄品は整備しているが、前回の課題などは残っている。	職員の救急救命訓練の受講を計画的に実施できるよう期待したい。また非常災害時の各対応マニュアルを整備するとともに、地震を想定して各ケア場面での対応について話し合い、記録に残すよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様、一人ひとりの人格や尊厳を大切に、プライバシーにも配慮しにする声掛け、対応をするよう全職員が心掛けています。	利用者の呼びかけは「さん」づけとし、職員の対応で気になる点があればその都度注意している。年2回、接遇等の勉強会を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自己決定や思いを表出できるような雰囲気、できるように、言葉掛けに努め、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを尊重、優先し、それを大切に、自由で、ありのままに自分らしく過ごすことができるよう全職員で支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、着替えが必要な時、洋服選び自己決定ができるよう支援しています。また、法人の理容師が3ヶ月に1回訪問し髪を整えています。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた食事のメニューがあり、その都度、法人本部より行事食の配達があります。職員と肉じゃがや、そうめん等々の簡単な料理作りに参加していただいています。後方づけのお手伝いもお願いいたします。すし職人が来訪され寿司を握ることもある。	本部が作る献立をもとに利用者の希望を取り入れて食事を提供している。おかずや食器は彩りが豊かである。利用者が下ごしらえや後片付けなどを手伝っている。事業所の畑で穫れたさつまいもやピーマン、かぼちゃ、ナスなども食卓に上っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の、習慣を把握し水分量や食事量の記録をを行いその、ご利用者様にに応じた摂取量が確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアの支援を行っています。介助の必要な方々には職員が、必要な支援を行います。終寝時、義歯の洗浄を行います。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の、排泄チェック表で排泄パターンを把握しトイレで排泄ができるよう声掛けや介助を行っています。また、歯科医師によるクリーニング指導も行う場合もあります。	「生活シート」に全員の排泄状況を記録しパターンを把握している。誘導時はなるべく小声で呼びかけている。利用者の状況に応じて、布パンツ、紙パンツ、パッドなどを使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため水分摂取、運動の声掛けをしています。また排泄チェック表を用いて排便パターンを把握します。下剤を使用しスムーズに排便ができる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則として、月曜日から金曜日が入浴日ですが、個々の希望、体調に応じて柔軟に対応しています。入浴剤を使用し、気分転換して頂いています。	入浴日を月火、木金の曜日を基本としているが、それ以外の日も入浴可能で、主に午後の時間帯で各利用者が2回程度、入浴している。入浴を拒む方は減っており、上手に誘導できている。一人で入浴する方は職員が見守りをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様、個々のその日の状態や習慣に応じて休息が取れるよう支援しています。また、ご本人様に合う枕などの高さも調整するともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が個々の薬の内容を理解できているか確認したり、薬の変更の際は、申し送り、記録に残し確認できる体制にしている。副作用など分からない事は、薬局に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お誕生会や、季節に合わせたホーム行事に参加して頂き、気分転換をして楽しんで頂いています。個々に、合う役割をみつけ力を発揮して頂けるよう支援しています。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の公園を散歩したり、日光浴をしたりしています。また、お花見や紅葉狩りなどのドライブの外出支援にも努めています。また、買い物の希望があれば外出支援も行っています。近年、ホームの畑に作業するための外出も多くなっています。	日常的に近くに2つある公園に散歩に出かけている。衣類などを買いに、職員と個別の買い物に出かける方もいる。外出行事では白鳥見物や春の花見、紅葉見物などがあり、馬追自然の森、栗山公園、長沼町運動公園などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご職員が必要に応じて支援しています。ご利用者様が、管理できる場合は個人で管理できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様からの要望があれば支障がない限り気軽に電話や手紙での交流ができるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全職員で、ご利用者様が、ゆったりと居心地よく過ごせるような雰囲気作りや環境を作りをしています。	共用空間は清潔で、南に面した窓から光が差し込み、明るく快適である。観葉植物が多く置かれ、窓からは庭や公園を眺めることができる。浴室やトイレは比較的広く造られ、エレベーターも設置されている。台所から食堂や居間を見渡すことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様が、自由に楽しめるよう座る場所に配慮したり、自由なペースで過ごせるような雰囲気作りにも努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が今まで使用していた馴染みの家具や写真、どのような物でも持ってきて頂きご自宅の雰囲気の中で安心して暮らして頂けるよう環境を整えています。自室にて好きなテレビやラジオを楽しめる事もあります。	居室入口に個々の好みの写真を飾っている。室内にはタンスや仏壇、冷蔵庫、テレビ、ベッド、戸棚など馴染みのものが置かれている。壁にもカレンダーや風景写真などを個々に自由に飾り付けしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、完全なバリアフリーになっており、安全で分かりやすい作りになっている。ご利用者様が安心して自立生活を、いつまでも、送れるよう支援しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800291		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホームおおきな家 西館		
所在地	夕張郡長沼町西町1丁目4-6		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切にしながら、日々の生活の中で利用者様個々の力を発揮し、自立した生活が送れるよう支援しています。

季節の行事や散歩などに参加し、地域住民との交流を図っています。  
毎年「みんなの家」と合同で夏祭りを開催し、ご家族やご近所の方を招きご入居様と共に交流を深めています。

敷地内に畑があり、散歩を兼ねて草取りや、収穫を楽しんだり季節を感じながら生活を送っていただいています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0175800291-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0175800291-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく自由に、ありのままに暮らしの喜びと自信をみんなと共に」の理念を実践し利用者様がより良い生活を送れるよう支援に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し「花いっぱい運動」や「清掃活動」に利用者様と一緒に参加したり、夏祭りなどの行事にも近隣の方々をお誘いし交流を持っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について職員が共通の理解を持てるよう研修会に参加し、地域の方々にも理解や支援を伝えていけるように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの取り組みについて報告し、ご家族様や地域の方の意見をお聞きし今後のサービスに反映できるよう努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と連携し協力関係を築くよう努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の具体的な行為について理解を深め、職員間で情報を共有、サポートし合えるよう協力し、身体拘束のないケアを実践しています。また個々の行動の安全に配慮し行動を制限することがないように努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、研修会などに参加し、高齢者の虐待防止について理解を深めるよう努め、虐待のないケアを実践している。利用者様の心身の状態の確認を常にに行い見過ごすことが無いよう、努めています。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等は、研修会等学ぶ機会があれば参加するよう努めています。 現在まで活用した支援はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ご家族やご本人の不安や不明な点がないように解りやすく、納得頂けるよう説明するように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時などに利用者様の状態を伝えたりご要望や、意向をいつでも聞く事ができる体制を作り、お聞きしたご要望、ご意見を運営に反映できるよう努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや業務の中で情報交換や意見交換など行い毎日のサービスに繋げている。 また法人本部は職員の意見や提案をいつでも聞ける体制を設けそれらを業務に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職場に来られてスタッフとの会話を通して職場環境を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握している。また研修資料などの配布を行い法人内の研修の機会を確保できるよう図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との合同研修会などでネットワークの機会を作り意見交換をしサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族からこれまでの生活環境や情報をお聞きし困っていることや不安なこと、抱えている問題などに耳を傾け安心してサービスを受けることができるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用時にご家族が不安に思う事、困っている事に耳を傾け、要望を確認し、少しでも不安が解消できるような信頼関係を作れるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のの思いと現状を聞きながら今一番必要とされる支援を見極めるよう努めています。また他のサービスも必要かを検討し対応できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの人格を大切にし一方的な介護ではなく家族的な雰囲気物事を一緒に行い支えあいながら生活を送っていけるような関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の、身体状況や生活状況について連絡を密にとり、相談をしながらご家族と一緒に係わり、ご本人を支えていけるような関係づくりに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来訪していただきたいという姿勢を心がけています。人間関係や友人の訪問が途切れないような雰囲気づくりをし、これまでの関係が途切れないような支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や、生活習慣を把握し、トラブルがないように職員が仲を取り持ち、お互いに助け合い良好な関係を作れるようサポートしています。利用者様同士が支え合い、個々が孤立する事がないように支援に努めています。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様が入院をされた場合は、馴染みの関係が崩れないように病院へ会いに行き状況を聞いたり相談支援をするよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の思いや意向をお聞きしたり、これまでの生活環境やご家族からの情報、ご本人との会話などから把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報や生活歴などで把握することにより今後のケアに活かせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で本人の身体状況の変化や出来る事や出来ない事を把握するよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況や思い、家族の思いを聞きながら介護計画に反映させるようにしている。計画に沿った介護が実施されているかモニタリングを実施し検討、意見を取り入れ計画書に反映させるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を作成し、支援内容や一日の行動や話した内容などを記録し職員間で情報を共有し日々のケアの実践に繋げています。介護計画の見直しにも生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様の状況に応じて発生するニーズに合わせた柔軟なケアサービスが出来るように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉サービスや医療機関を把握しニーズに対応できるよう努めています。また町内会の行事にも参加し豊かな生活ができるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を尊重し入居前からのかかりつけ医に継続して受診ができるよう支援しています。専門医の受診も行い適切な治療ができるように支援しています。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が配置されておりいつでも対応できる体制が整っています。職員は利用者様の健康状態の把握、体調の変化に気づくように努め、状況に応じて看護師へ連絡、相談し適切な看護が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は安心して治療し、早期に退院ができるよう病院関係者との情報交換や相談を密に行うように努めています。また定期的受診時や訪問診療などで、情報交換し病院関係者と協力できるような関係づくりに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、ご本人やご家族と相談し希望があれば対応するよう努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が定期的に応急手当や初期対応の訓練は行っていない。個別には町内で主催する応急手当の研修会に参加しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災や地震を想定し避難訓練を実施している。避難経路の確認や消火訓練を実施し職員は避難方法を身につけています。近隣住民の参加は得られていません。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や尊厳、プライバシーに配慮した声掛け、対応をするよう毎日緊張感を持つよう心がけていますが、気配りのない声かけや対応があり職員間で注意をしながら介護にあたっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や思いを表出できるような意図的な声掛けをしたり、表情の観察をしながら自己決定がしやすい環境づくりをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重、優先し各々が自由にありのままに自分らしく過ごすことができるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前で髪を整えていただいたり、入浴の着替えの準備、外出の際の洋服選び等、出来る限りその人らしい暮らしができるよう支援しています。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の嗜好を把握し食事を提供しています。また食材の下準備や食後の後片付け等もしていただいています。お寿司屋さんに出向いてもらい握りずしを握ってもらう事もあり利用者さんと共に食事を楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの習慣や食事を把握し水分量や食事量のチェックを行い各々の一日の摂取量が確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを個々の状態に応じて声掛けや、介助により支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握しトイレで排泄ができるよう声掛けなど支援しています。自分で出来る事はしていただき一連の動作が定着し自立できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため水分摂取、運動の声掛けをしています。また排泄チェック表を用いて排便パターンを把握し、主治医と相談し必要に応じて下剤を使用しスムーズに排便ができるよう支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴日ですが個々の希望、体調に応じて柔軟に対応し入浴を楽しんで頂けるようにしています。入浴を拒否される場合は時間や日を改めるなどしてなるべく入浴できるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の体調に合わせて休養していただいたり、日中は体操やレクリエーションなどで体を動かし体調を整え気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容書はスタッフ全員が見ることができるよう個別のファイルで保管し薬効、副作用について理解ができるようにしている。薬の変更があった場合は記録と申し送りを適格に行い、状態によっては主治医や薬剤師に相談し調整しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や嗜好、力の把握に努め、ご本人の状態にあった役割で力を発揮できるよう支援しています。季節のホーム行事等にも参加し気分転換が図れるよう支援しています。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	悪天候や冬季以外にご出来る限り近所を散歩したり日光浴などの支援をしています。また希望があれば桜や白鳥などを見にドライブにも出掛けられるように支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として管理しご本人の要望により使用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様からの要望があれば支障がない限り気軽に電話や手紙での交流ができるよう支援しています。また携帯電話を持っている方には自由に電話ができるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が、ゆったりと居心地よく過ごせるような環境作りに努めています。快適に生活が送れるような室温や湿度、採光などの配慮に努めています。窓からは庭やご近所、公園などが見え生活感や季節を感じるすることができます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間、または気の合った方と楽しめるよう座る場所に配慮したり、雰囲気作りに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた慣れ親しんだ道具や、家具、思い出の品やご家族の写真など持ってきて頂き自宅のような雰囲気でき安心して落ち着いて生活できるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はご利用者様が迷う事が無く解りやすい作りになっています。少しでも自立した生活を送って頂けるよう手摺の設置、家具の場所などスムーズに行動できる環境づくりに努めています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームおおきな家

作成日：平成 31年 3月 22日

市町村受理日：平成 31年 3月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	・ご利用者様の思いの把握について、センター方式のシートを十分に活用しきれていない。	・ご利用者様の暮らしについて現状の趣味、嗜好など、日々の変化についても、センター方式のシートを利用して記載したい。	・現在使用しているセンター方式の「心身の情報」のシートを使用して暮らしの情報や最近の変化についても記載する。	1年
2	35	・消防の避難訓練時、地域住民の方々の参加が得られていない。	・避難訓練時に地域住民の方々に参加していただく。	・現在行っている参加のお願いは、引き続き行いながら、外での挨拶等も利用して、参加のお願いをしていく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。